

発行：
山古志木籠ふるさと会
会長：松井 治二
発行年月日：
平成 24 年 9 月 15 日



【ごあいさつ】 まだまだ厳しい暑さが続きますが、皆様どうお過ごでどうですか。

年頭から豪雪に見舞われ、春の訪れが遅くなり、田植えの時期も一週間先延ばしになりました。その為、皆様には多忙スケジュールの中、都合を合わせて頂きご迷惑をお掛けしましたが、素晴らしい天候に恵まれ、東北の方々と一緒に楽しい田植えが出来ました。また、梅雨時期には少雨で、今では水不足が深刻な問題となっております。田んぼはひび割れ、畑の土は渴き、農作物が枯れつつあります。その為、山からの水運びに毎日追われている次第です。このような大変な状況に置かれても、会員の方々が中心になり、村の道普請や畑仕事、最近では盆踊りといった行事に多大なお力添えを頂き本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

水没家屋を見守る会では、皆様の暖かい賛同をいただきました。東北を始め、県内外の方が木籠に訪れ、私達にうれしい言葉をかけて頂きました。先日は「こここの人の頑張ってきた姿を拝見したい」と、津波の被害に遭われた仙台の方がお見えになりました。福島の女性の方も、原発での被害に苦しんでいると涙ながらにお話を聞かせてくれました。県外からのお客様からも、「頑張って。負けないで」と励まされ、手に手をとって「はい、頑張ります」と希望に満ちた笑顔を見せて福島に帰られました。みんなで喜び、悲しみを分かち合い、必ず乗り越えていけると、改めて感じる事が出来ました。

山の再生機構理事長の平井先生が以前にお話をされていました。「ここが震災の先頭ランナー」この言葉どおりに、「地震からの再生、そして新たな日本のふるさと」を目指してゆく所存であります。引き続き皆様のご支援、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

秋野菜や稻穂が実る頃、笑顔で会える事を楽しみにしています。その時まで、皆様どうぞ健やかにお過ごし下さい。

山古志木籠ふるさと会会長 松井 治二



今年もお盆がやって来る ～みんなでご先祖様を迎える準備～

もうすぐお盆です。里帰りする家族や親せき、それからご先祖様。みんな楽しみにしている集落の盆踊り。

8月12日猛暑の中、集落住民と集まった会員でその準備がはじまりました。集落内に背丈ほども繁った萱や葛などの草を刈り、人の通り道を整備します。長袖長ズボンに長靴で汗びっしょりの大変な作業です。お地蔵様の周囲もすっきりして、うれしそうなお顔をされています。



↑ きれいに姿を現したお地蔵様
← 生い茂った山道の草刈り

夏の道普請、仕上げは何といっても集落神社の大清掃です。ここが神事と盆踊り会場。崩れた灯籠を力を合わせて積み上げました。神社周囲の草を刈り、神社の中も外もお母さん達が一生懸命掃いたり拭いたり。ピカピカになって神様も、賑やかなお祭りを楽しみにされていることでしょう。

最後に幟^{のぼり}が掲げられ、準備は完了。今年もみんな待っています。15日が待ち遠しく、流した汗も、皆でスイカをいただいて、あれやこれやと話しているうち疲れと一緒に吹き飛びます。本当にお疲れ様でした。



盆踊り本番 ～雨にも負けず、踊りましょう～

8月15日、萩や萱、野の草花で神社を飾り、灯籠を灯す準備ができると、いよいよ神事が始まります。例年、集会所からホラ貝の音とともに、集落住民みなで歩いて神社に向かうのですが、今日の天気は雨。少し略式で鳥居をくぐるところから神主様と神社に入りました。夕食も皆が広場で輪になってとはいからず、神社の屋根で雨宿りしつつ、肩を寄せ合い狭い中の食事です。けれどお母さん達のご馳走はいつも変わらずとても美味しく、雨をしのいで身を寄せ合う食事はあったかく、これから踊り明かすのにたっぷりのパワーをいただきました。



↑ ホラ貝に続いて神主様と入場
← 雨宿りしながらの夕食



さあ、踊りが始まれば、太鼓と唄と踊りのコラボレーション。灯籠の光が幻想的に広場を照らし、小雨にかまわず踊りが続きました。かわるがわる腕をふるう太鼓打ち。地元のお母さんの踊りを見よう見まねで輪に加わってくださった参加者の皆さん。今だ現役の生の唄声。ここには今だに日本の夏の原風景があります。震災



を経ても、なお蘇った故郷のお盆が山古志の木籠にはあるのです。



ふるさと会の畑と田んぼ ～夏の恵みいっぱい～

春に植えた夏野菜、山古志名物神楽南蛮も恵みの時期です。お盆前の道普請後、残った力を振り絞ってジャガイモ堀りをしました。冬の蕎麦打ちを楽しみに、猛暑の中がんばって撒いた蕎麦は、暑さでだめになりました。それでもまた撒きなおしました。田んぼの稻の方はそろそろ稲穂がたれ始めています。稻刈りで、また皆さんとお会いできるのが楽しみですね。



7月29日

↓ 暑さと闘った蕎麦まき

夏の郷見庵 ～とっとも辛い神楽南蛮～

【山古志木籠産 神楽南蛮】



「かぐらなんばん」、「神楽南蛮」、今はすいぶん皆さんに知つてもらつるようになりましたが、もともとは昔から山古志だけで栽培されていた、原種に近い南蛮だといわれています。見た目が神楽面のようだから、こう呼ばれるようになつたとか。知名度が上がり、いろいろな地域で栽培されるようになりましたが、とにかく山古志のものは辛い！料理しようと包丁で刻むと、次の日も手がヒリヒリします。うつかりそのまま手で目を触つたらもう大変です。でも、山古志のこの辛さ、ぜひ一度味わつてみてください。他にも新鮮夏野菜、毎朝たくさんお店に並びます。



↑郷見庵売店
上田久江さん
一針一つ使わない竹の柄杓
郷見庵の清水飲み場と同じ物
お店の案内人



新鮮な夏野菜を販売しています。



郷見庵を訪れた方々 ～たくさんの出会いに感謝しています～



【郷見庵 2階 震災復興資料館の写真】

足の悪い母が、山を見ると元気になり、足の痛みを忘れ、山に入り山菜をとつて、郷見庵に寄りました。
昔話に花を咲かせ楽しそうでした。来てよかったです。

川向 次女 和子
(震災前木籠に住んでいた方のご親戚です)

時々、郷見庵でお手伝いをしています。木籠のおばあちゃん達はいつも「おまん、来てくったね～」「ありがとお～」と声を掛けてくれます。辛いこと、悲しいことを沢山経験して、まだまだ体も心も辛いはず。でもいつも前向きで、私は郷見庵に行っていつも元気を戴いて帰ります。

郷見庵を訪れるお客様も、地震や水害の自然災害を体験された方が大半ですが「大変でしたね」とこちらを気遣う言葉をかけてくださいます。

山古志の皆さんを見ていると、必ず、きっと、何かあっても立ち直れる、人の強さに勇気づけられます。松井さんもこう言います。「人生無駄なことは一つもないよ！」って。苦労した方って、皆さん優しいですね。

ふるさと会 青柳 富子

あれから8年になりました。中越大震災の象徴的な木籠集落。いろいろな決断をしながら今日に至りました。全国から多くの皆さんが訪れ、郷見庵から元気をもらって帰られます。今までの思いを自信にかえ、郷見庵で一服し、また歩きましょう。

山古志梶金 関 正史議員

郷見庵がオープンして2年目になりました。まだまだ沢山の方々が遠く県外からもいらっしゃいます。「大変でしたね」「よく頑張りましたね」と声をかけていただきますが、すっかり私も地元人間になりきっています。私はオレンジピール・布バッグ・小物等を作つて郷見庵に並べています。「美味しい」「かわいいね」「すてき」と手にとって下さるお客様について「私が作りました」と言つてしまつて、作り方を説明したりで、またまた会話が広がり、山古志で過ごす時間は私にとっても楽しいひとときになっています。“また来たい”と思っていただけるようお手伝いをしていきたいと思っています。

ふるさと会 玉木 久子

郷見庵には笹団子を並べています。山古志特産、神楽南蛮味噌を入れた笹団子。最初は「えー！」と言われましたが、食べてみて「おいしい」の声を聞き、気をよくして作っています。

手間をかけずにちょっと楽しんでもらえたらと思ついたのがコンニャクの醤油煮でした。月1, 2回の不定期でお客様には申し訳ない思いがします。

「どちらからですか」「ピーマンではないんですよ」と楽しい会話をさせてもらひながら、私の作った神楽南蛮味噌を試食してもらいます。

郷見庵は皆さんそれぞれの得意分野でいろんなものが並びます。

ビックリしたり、感動したり、励まされたり。久しぶりの顔が見えるとホッとした。

今日も神楽南蛮味噌ができあがりました。明日は郷見庵に届けにいけるかなー！

こんな私ですが、これからもどうぞよろしくお願ひします。

ふるさと会 品川 光子

【郷見庵から見える水没家屋(夏)】



笹採りから始めよう！笹団子とチマキ

大きな七夕 木籠の空に願いを込めて



← 郷見庵2階で風になびく
七夕飾り

↑「どの笹がいいかなあ～」 ↑笹をきれいに拭いて、ととのえて

6月24日、笹がいい頃合いに育ちました。草藪をかき分け山に入り、ハリもツヤもとても良い、大きな笹が採れました。一枚一枚丁寧にととのえ、笹団子とチマキ作りの準備が進みます。

お米の用意も整って、さあみんなでチマキと笹団子つくり。笹の巻き方、お米の入れ具合、ひもの縛り方…木籠のおばあちゃん達がいつも上手に教えてくれます。毎年練習して随分上達した会員も今では立派な先生です。みんなで頑張った後は、自分の手作り、出来立てのチマキと笹団子で、楽しくお昼をいただきました。

6月24日、今年は大きな竹にチャレンジしました。七夕飾りも豪華なものをとみんなでハリキッテがんばりました。30日に大きい竹への飾り付けを行ない、2本作った七夕は、1本はやや豪華目に飾って郷見庵2階の階段に、もう1本は郷見庵に訪れたお客様が願いを籠めた短冊をその場で飾れるように設置しました。

郷見庵前でお客様も願い事を…→
みんなで七夕飾り作り ↓



今後の日程

- ・稻刈り
- ・脱穀
- ・雪割り草苗植え
- ・震災記念日、郷見庵感謝祭
- ・蕎麦の収穫
- ・蕎麦打ち大会

- 9月23日(日) 予定**
10月上旬
10月上旬
10月23日(火)
10月下旬～11月上旬
11月下旬

尚、詳細は

ふるさと会ホームページ
(<http://yamakoshikogomo.com/>)

にて逐次連絡します。

「山古志木籠 ふるさと会」：お問い合わせ、入会ご希望の方は、下記へご連絡ください。

■山古志 木籠ふるさと会 会長 松井治二 (FAX/電話) 0258-59-2180

■山古志木籠ふるさと会 事務局 担当：石井秀次 (Eメール) cid85830@syd.odn.ne.jp

※活動の様子は、ホームページをご覧ください

山古志木籠ふるさと会 <http://yamakoshikogomo.com/>